

# 「S-イノベ」のテーマ設定を行っています。

**S-**イノベ(研究成果展開事業戦略的イノベーション創出推進プログラム)は、JSTの戦略的創造研究推進事業などの成果から設定した「研究開発テーマ」を対象に、実用化に向けた産学協同の研究開発を推進するプログラムです。1つの研究開発テーマに対して5課題程度を公募で採択し、最長10年間という長期の研究開発支援を行うことで、イノベーションの創出を図ります。今年度の研究開発テーマは「スピン流を用いた新機能デバイス実現に向けた技術開発」に設定されました。

「研究開発テーマ」の設定にあたっては、複数の討議段階を経て、徐々に絞り込んでいくというプロセスをとりまします。このプロセス全体を運営するのが私の業務です。

「研究開発テーマ」の設定に向けた業務は、まず、JSTの戦略的創造研究推進事業などの優れた成果のなかから、産学連携が期待できるものを抽出することから始まります。事業の担当者として協力して、今年度は約80の成果から16のテーマ候補を抽出しました。

次に、これらの16の候補について、私たち事業計画・調整担当が分担・連携しながら、詳細な調査検討を行います。S-イノベは、1つの企業と1人の研究者からなるシンプルな産学連携ではなく、複数の産学連携チーム



産学基礎基盤推進部事業計画・調整担当  
主査

野口尚志(28) のぐち・たかし

## ●業務の内容

産学連携に関する競争的研究資金を運営する部門で、研究推進そのものではなく、研究開発テーマを設定する業務全般を行う。「S-イノベ」のほかに、「産学共創基礎基盤研究プログラム」の技術テーマ設定も担当する。

## ●Background

東京大学大学院総合文化研究科で科学技術社会論を専攻し「科学技術に対する市民参加」を研究。修士課程修了後、JSTに入社。入社以来、一貫して産学連携の競争的資金運営に携わってきた。現在5年目。

が情報共有することでの相乗効果を得ることを目指しています。この観点から、「技術の用途が限られていないか」「実施可能な企業はどれだけあるか」「想定される市場はどのくらいの規模か」など、検討する項目は多岐にわたります。大学や企業などに足を運んで研究者へのインタビューを実施するとともに、論文や特許調査も行います。また、JSTの研究開発戦略センター(CRDS)の調査結果も参考にして、ここで候補は3つに絞り込まれました。じつは、昨年も「スピン流」がテーマ候補に挙げられていましたが、時期尚早ということで、この段階で見送りとなっていたのです。しかし、この1年で続々と研究成果が出てきたことで、今年度は有力なテーマ候補になりました。

3つに絞り込まれたテーマ候補は、その後、外部有識者で構成する推進委員会に諮られ、ここで2テーマが選ばれました。選ばれた両テーマ候補については公開ワークショップを行い、その結果も踏まえた推進委員会の提言をもとに、最終的に研究開発テーマが選定されました。これら一連の委員会やワークショップの運営も私たちが担当しています。

現在、今年度から始まる研究開発テーマに決まった「スピン流」について、課題公募が行われており、来年早々に研究開発がスタートする予定です。



左:ワークショップのモデレーターとの事前打ち合わせ。モデレーターは研究開発テーマ設定後、プログラムオフィサーとして課題の採択、テーマの推進を行う。中:開かれた場で討議するワークショップを経ることで、産学連携の可能性を明確にしてい。右:ワークショップでの司会も業務の1つ。

TEXT:Office彩蔵